

福島第一原子力発電所では、事故の際、原子炉内の燃料が溶け周囲の構造物と混ざりながら冷えて固まった「燃料デブリ」の取り出しに関連する取組みを安全最優先で進めています。それらの取組みについて、イラストや動画を用いて紹介する「燃料デブリ ポータルサイト」でお知らせしています。

燃料デブリ

検索



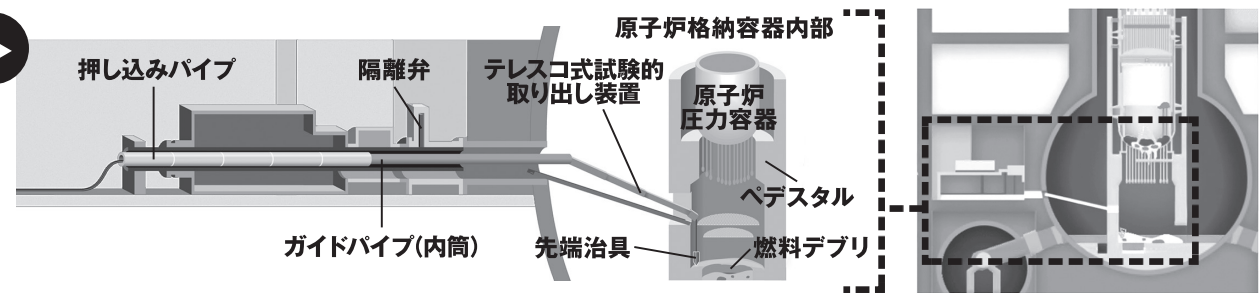
テレスコ式試験的取り出し装置※1

2024年9月着手

堆積物の除去が完了した貫通孔から「テレスコ式試験的取り出し装置」を進入させるため、事前に工場での取り出し装置のモックアップによる機能検証等を行いました。

9月10日、ガイドパイプ(内筒)に押し込みパイプを接続し、燃料デブリ試験的取り出し作業に着手(取り出し装置の先端治具が隔離弁を通過)しました。

今後、先端治具をペDESTAL※2底部へ吊り下ろし、燃料デブリ(3g以下)を採取します。



※1: 原子炉格納容器の底部にある燃料デブリを採取するための、釣り竿(伸縮)型の装置

※2: 原子炉压力容器を下部から支える、配筋をコンクリートで覆った筒状の構造物

原子炉格納容器

